

# アットウシ<樹皮織維製衣服>

アイヌ文化にあう



北海道/日本

参照資料 :

『アイヌ もっと知りたい!くらし  
や歴史』P14~16  
『アコロコタン』  
『太陽の地図帖 アイヌの世界  
を旅する』P27・72



## アットウシ

アットウシは、おもにオヒョウ（ニレ科）の木の内皮から糸を作り、織った布でできています。本州以南でも、シナノキ（科・級・榎の木）やフジ（藤）などの樹皮から作る布があります。捩り袖が多く、衽（前身頃の左右を合わせるために足した部分）がありません。また、作業をする時は帯でしめます。女性は、モウルと呼ばれる肌着を着てから羽織りました。

### 【佐々木先生からのひとこと】

アイヌ語には日本語にない発音があります。アットウシの「ツ」や「ウ」のように小さく表記し、読むときは軽く発音します。

### 【斎藤先生からのひとこと】

アットウシは水に濡れても体に張りつかないので、本州出身の船乗りや漁師にも好まれ、江戸時代後半から明治初期にかけて、北海道からたくさん移出されました。アイヌ語の発音については、北海道新聞電子版の「アイヌ語小文字発音講座」で音を聞くことができます。たとえば小さく表記する「シ」は以下を参照してください。

<https://www.hokkaido-np.co.jp/movies/detail/5536219035001>



国立民族学博物館  
National Museum of Ethnology

※C0102 どちらか1点が入っています

# ルウンペ<木綿衣>

アイヌ文化にあう



北海道/日本

参照資料 :

- 『アイヌ もっと知りたい！  
くらしや歴史』P14～16
- 『アコロコタン』
- 『季刊民族学 No.160  
』P44～51



## ルウンペ

木綿の衣服は、刺しゅうや文様に使う布の色や形などによって、それぞれ呼び方があります（地方によって異なります）。製作者の小美浪さんの地域（白老町）では、この服はルウンペと呼びます。さまざまな色のテープ状の布で文様をつくり、さらにその上から刺しゅうをしたものです。

### 【斎藤先生からのひとこと】

文様の角や、うずまきのようになっている部分を、どのように縫っているのか、よく見てください。



国立民族学博物館  
National Museum of Ethnology

※C0102 どちらか1点が入っています

# カパラミプ<木綿衣>

アイヌ文化にあう



北海道/日本

参照資料 :

- 『アイヌ もっと知りたい!  
くらしや歴史』P14~16
- 『アコロコタン』
- 『季刊民族学 No.160  
』P44~51



## カパラミプ

木綿の衣服は、刺しゅうや文様に使う布の色や形などによって、それぞれ呼び方があります（地方によってこと異なります）。切り込みを入れた大きな白い布を縫いつけて、文様にした服は、日高地方でカパラミプと呼ばれ、いまでは他の地域でも、そう呼ばれるようになってきています。

制作者の竹内明美さんが、あわせてモウル（肌着）も作ってくれました。



モウル<肌着>

### 【齋藤先生からのひとこと】

文様になっている白い布は、どこからどこまでが1枚なのか、よく見てみましょう。



国立民族学博物館  
National Museum of Ethnology

# マタンプシまたはマタンプシ<はちまき>

アイヌ文化にあう



北海道/日本



## マタンプシ または マタンプシ

古くは男性が用いたもので、山へ狩りに行くなど作業をするときに使うものと、<sup>せいそう</sup> 盛装のときには着けるものがありました。現代では、女性も<sup>そうしょく</sup> 装飾品として着けるようになりました。はちまきの額の部分には、文様が刺しゅうされています。

### 【佐々木先生からのひとこと】

結び方は、地方によっても違いますが、頭の後ろで結ぶことが一般的です。

### 【斎藤先生からのひとこと】

額の部分の幅<sup>はば</sup>がひろく、端<sup>はし</sup>にいくほど細くなっているものや、一定の幅のものなど、形もさまざまです。



国立民族学博物館  
National Museum of Ethnology

※C0104 どちらか1点が入っています

# 木綿のマエタレまえか <前掛け>

アイヌ文化にあう



北海道/日本



## マエタレ

マエタレはマンタリなどとも呼ばれ、いずれも日本語の「前垂れ」が変化したもので、女性は家事や作業をするときなどに身につけ、衣服を汚さないためばかりでなく、前がはだけないようにしていました。

### 【佐々木先生からのひとこと】

今のエプロンと同じようなものですね。



国立民族学博物館  
National Museum of Ethnology

※C0104 どちらか1点が入っています

## アットウシ<樹皮纖維製布>のマエタレ<前掛け>

アイヌ文化にあらう



北海道/日本

参考資料 :

『太陽の地図帖 アイヌの世界を旅する』P27



### アットウシのマエタレ

アットウシは、オヒヨウ（ニレ科）などの樹皮の纖維から作った糸で織った布です。マエタレはマンタリなどとも呼ばれ、いずれも日本語の「<sup>まえた</sup>前垂れ」が変化したものです。女性は家事や作業をするときなどに身につけ、衣服を汚さないためばかりでなく、前がはだけないようにしていました。

#### 【斎藤先生からのひとこと】

このマエタレは、北海道平取町二風谷の関根真紀さんが織り、刺しゅうをしたものです。



国立民族学博物館  
National Museum of Ethnology

※C0105 どちらか1点が入っています

## サラニブ<sup>あ</sup><sub>ぶくろ</sub>〈編み袋〉

アイヌ文化にあう



北海道/日本

参考資料 :

『アイヌ もっと知りたい  
！暮らしや歴史』P20



### サラニブ

山菜や貝などを採って持ち帰ったり、ヒエやアワ、キビなどを収穫するときなど、ものを入れて運ぶための袋です。食べものの貯蔵用にも使われました。シナノキの樹皮などを編んで作ります。

#### 【齋藤先生からのひとこと】

入れるものによって大きさや形はさまざまです。作者の竹内明美さんが、  
せお  
背負いやすいようにタラ（荷縄）<sup>になわ</sup>を付けてくれました。



国立民族学博物館  
National Museum of Ethnology

※C0105 どちらか1点が入っています

# サラニブあ ぶくろ <編み袋>

アイヌ文化にあう



北海道/日本

参考資料 :

『アイヌ もっと知りたい  
！暮らしや歴史』P20



## サラニブ

山菜や貝などを採って持ち帰ったり、ヒエやアワ、キビなどを収穫するときなど、もの  
を入れて運ぶための袋です。食べものの貯蔵用にも使われました。シナノキの樹皮  
などを編んで作ります。

### 【斎藤先生からのひとこと】

入れるものによって大きさや形はさまざまです。



国立民族学博物館  
National Museum of Ethnology

# イタ ほん 盆

アイヌ文化にあう



北海道/日本

参考資料 :

『太陽の地図帖 アイヌの世界を旅する』P26



## イタ

食器をのせて使うだけではなく、食物を直接盛ることもありました。自分たちで使うのももちろん、江戸時代から献上品や交易品として和人向けに作られ、現在は工芸品としても販売されています。

【佐々木先生からのひとこと】  
かつては小刀一本でつくるのが一般的でした。

【齋藤先生からのひとこと】  
伝統的な文様のなかに、作者の貝澤守さん独自のデザインが加えられています。汚れがつきにくいように、オイルを塗って仕上げています。



国立民族学博物館  
National Museum of Ethnology

※C0106 どちらか1点が入っています

# イタ ほん <盆>

アイヌ文化にあいう



北海道/日本

参考資料 :

『太陽の地図帖 アイヌの世界を旅する』P26



## イタ

食器をのせて使うだけではなく、食物を直接盛ることもありました。自分たちで使うのももちろん、江戸時代から献上品や交易品として和人向けに作られ、現在は工芸品としても販売されています。

### 【佐々木先生からのひとこと】

かつては小刀一本でつくるのが一般的でした。

### 【齋藤先生からのひとこと】

この盆は、まるで柔らかな布のように作られています。作者の貝澤徹さんオリジナルの表現です。



国立民族学博物館  
National Museum of Ethnology

# マキリ<小刀>

アイヌ文化にあらう



北海道/日本

参考資料 :

『太陽の地図帖 アイヌの世界を旅する』P92  
 『アイヌ もっと知りたい！くらしや歴史』P21  
 『季刊民族学No.107』P86～87



## マキリ

小刀は、動物や魚をさばくときや裁縫、木彫品を作るときなどさまざまな場面で使われさいほう もくちょう、男女ともにいつも腰に携帶こし けいたいしていました。マキリは刀身と鞘さや つか、柄ちょうどこく ほどこなどでできています。鞘と柄には細かい彫刻ちようこくが施ほどこされたものが多くあります。鞘は1本の木をくりぬ抜はいたり、2枚に割った木を貼り合わせたりして作ります。貼り合わせた鞘には、桜の樹皮じゅひなどを巻きつけ、補強まほきょうしています。

### 【佐々木先生からのひとこと】

かつてアイヌの男性は、結婚けっこんを申し込む時、相手の女性に小刀を贈おくったそうです。彫刻ちようこくができるということは生活で使う道具を作る技術を身につけた証でした。

### 【齋藤先生からのひとこと】

本来の刀身は鋼はがねでできていますが、危なくないように木製あぶにしています。これまでに数多くの実用のマキリを作ってきた浦川太ハさんうらかわ たハさんが製作したものです。



国立民族学博物館  
National Museum of Ethnology

※C0107 どちらか1点が入っています

# マキリ<小刀>

アイヌ文化にあう



北海道/日本

参照資料 :

『太陽の地図帖 アイヌの世界を旅する』P92  
『アイヌ もっと知りたい！くらしや歴史』P21  
『季刊民族学No.107』P86～87



## マキリ

小刀は、動物や魚をさばくときや裁縫、木彫品を作るときなどさまざまな場面で使われ、男女ともにいつも腰に携帯していました。このマキリ（小刀）は大正から昭和にかけてのものと推定されます。マキリは刀身と鞘、柄などでできています。鞘と柄には細かい彫刻が施されたものが多くあります。鞘は1本の木をくりぬ抜いたり、2枚に割った木を貼り合わせたりして作ります。貼り合わせた鞘には、桜の樹皮などを、巻きつけ、補強しています。

### 【佐々木先生からのひとこと】

かつてアイヌの男性は、結婚を申し込む時、相手の女性に小刀を贈ったそうです。彫刻ができるということは生活で使う道具を作る技術を身につけた証でした。

### 【齋藤先生からのひとこと】

本来の刀身は鋼でできていますが、危なくないように木製にしています。



国立民族学博物館  
National Museum of Ethnology

# イクパスイ <捧酒箸>

アイヌ文化にあう



北海道/日本

参照資料 :

- 『アイヌ もっと知りたい  
！くらしや歴史』P28～29
- 『季刊民族学No.42』
- 『季刊民族学No.107』P85
- 『季刊民族学No.150』P78  
～79
- 『季刊民族学No.162』P75  
～82



## イクパスイ

カムイや祖先に祈る際、お酒を捧げるために用いるへら状の道具で、人間の祈りのことばを補ってくれるものと考えられています。北海道では、イクパスイと呼ばれ、イクは（酒を）飲む、パスイは箸のことなので、アイヌ語の意味や用途から日本語名が付けられています。左手に酒を入れた椀を、右手でイクパスイを持って先端にお酒をつけて揺らすようにして捧げますが、作法には地域差があります。

### 【齋藤先生からのひとこと】

古い資料の表面の彫刻は、うずまきや植物、魚の鱗のような平面的な文様ばかりではなく、熊や船など立体的なものもあります。祈りを届けるための大切な道具なので、とくに丁寧にやさしく扱ってください。



国立民族学博物館  
National Museum of Ethnology

# ムツクリ または ムツクル<口琴>

アイヌ文化にあう



北海道/日本

参照資料 :

『アイヌ もっと知りたい！  
くらしや歴史』P35



## ムツクリ または ムツクル

日本語で口琴(こうきん)とよばれる楽器です。アイヌのものは竹製です。本体の真ん中には弁と呼ばれる切りこみがあり、その弁をひもで引っ張って、振動させて音をだします。口の大きさや舌の位置、息の量を変えることでいろいろな音ができます。

### 【佐々木先生からのひとこと】

ムツクリは、海や川、風の音、動物の鳴き声などを表現したり、自分の想いを相手に伝えるときに奏でられました。ムツクリは海外にもある楽器なので探してみよう。

### 【齋藤先生からのひとこと】

音を鳴らすには、コツが要ります。力まかせにひもを引っ張るのではなく、手首を弾くように（スナップをきかせて）動かします。ビーンという音が出るようになったら、口元に当てて音をえてみましょう。



国立民族学博物館  
National Museum of Ethnology

# カラカラ

アイヌ文化にあう



北海道/日本



## カラカラ

浦川太八氏が製作した子どもの玩具です。エゾシカの爪でつくられています。  
赤ん坊をあやすときに使う、取っ手のついた筒状の玩具「ガラカラ」に由来しています。

### 【佐々木先生からのひとこと】

爪が二重になっていて、とてもいい音がでます。



国立民族学博物館  
National Museum of Ethnology

# カリッペカブなど〈輪刺し〉

アイヌ文化にあう



北海道/日本

参照資料 :

『アイヌ もっと知りたい！  
くらしや歴史』P45  
『アコロコタン』P83~92



## カリッペカブ

子どもの遊び道具で、ブドウ蔓を曲げて作った輪を地面の上で転がして横から棒で突いたり、宙に投げ上げて先端が二股になった棒で受けとめたりします。こうした遊びは、槍で獲物を突き刺したりする練習にもなったといわれます。

### 【齋藤先生からのひとこと】

釧路市阿寒町の秋辺日出男さんが製作しました。（公財）アイヌ民族文化財団が製作した「子どもたちの遊び」の動画には秋辺さんも出演していますので、ぜひ見てください。



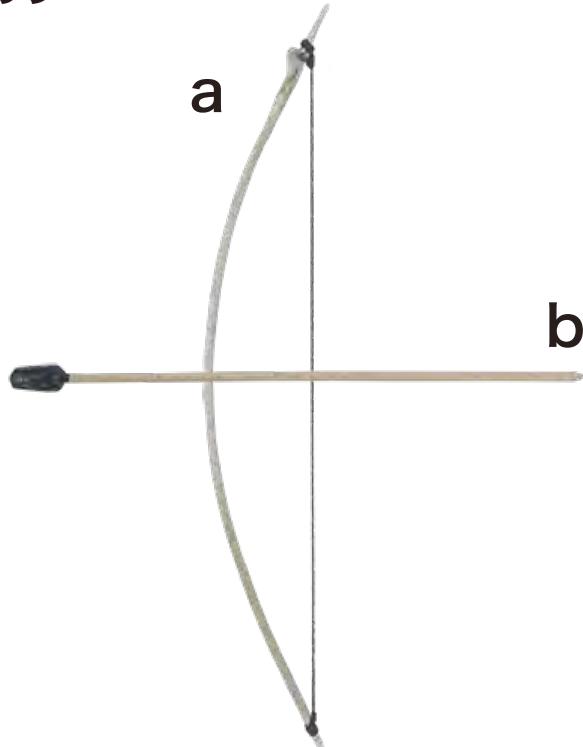
国立民族学博物館  
National Museum of Ethnology

# a.ポンク〈小さい弓〉b.ポナイ〈小さい矢〉

アイヌ文化にあう



北海道/日本



参照資料 :

『アイヌ もっと知りたい！  
くらしや歴史』P45  
『アコロコタン』P83～92

取扱注意 :

子どもが使用する簡単な作りの弓矢です。弓はゆっくりと引いてください。  
試すときには、まわりの人や物に十分注意してください。

## a.ポンク b.ポナイ

弓矢は、シカなどの狩猟<sup>しゅりょう</sup>に使われた大事な道具です。子どもは小さな弓矢で遊びながら、その扱い方を学びました。矢の先は危なくないようにしてあります。

### 【齋藤先生からのひとこと】

釧路市阿寒町の秋辺日出男さんが製作しました。（公財）アイヌ民族文化財団が製作した「子どもたちの遊び」の動画には秋辺さんも出演していますので、ぜひ見てください。



国立民族学博物館  
National Museum of Ethnology

# チタラペ<文様入りのござ>(ミニチュア)

アイヌ文化にあう

MINI  
PACK

北海道/日本



参照資料 :

『アイヌ もっと知りたい！  
くらしや歴史』P45  
『アコロコタン』P83～92

## チタラペ

ガマの葉を編んで作られるござは、ふかふかと柔らかく断熱性があり、無地のものは  
敷物として使用されます。赤や黒に染めた樹皮を編みこ込んで文様をつけたものは、  
儀式のときに酒器などの儀礼具を置いたり、祭壇に立てかけたりして用います。

### 【齋藤先生からのひとこと】

ガマの葉の切り口を見てください。段ボールのように隙間があり、空気をふくむ構造になっています。



国立民族学博物館  
National Museum of Ethnology

# a.手彫り茶托 b.レーザー彫刻コースター

アイヌ文化にあらう



北海道/日本

a



b



## a.手彫り茶托 b.レーザー彫刻コースター

a. 茶托<sup>ちゃたく</sup>は、もともとアイヌ文化にあったものではありませんが、江戸時代からみやげ<sup>えどじょう</sup>のや献上品などとして作られていました。

b. 最新のレーザー彫刻<sup>ちょうこく</sup>の機械で作ったもので、彫刻と同時に焼き色もつけられます。<sup>はんぱい</sup>手間をかけず、早く作れるため、安価で販売<sup>ふきゅう</sup>することができ、アイヌ伝統文様の普及に期待されています。

### 【齋藤先生からのひとこと】

- びらとりちょうにぶたに
- a. は平取町二風谷の洲崎春男さんが彫ったものです。手彫りとレーザー彫刻、  
どんなところが違うか比べてみてください。
- b. レーザー彫刻コースターのデザインは、平取町二風谷の関根真紀さんが手  
がけました。



国立民族学博物館  
National Museum of Ethnology

# 文様ツール①

アイヌ文化にあう



北海道/日本



## 文様ツール①

が  
一筆描きでアイヌ文様を体験できます。

解説パネルより

「指でなぞってみよう!赤の出発点●から、緑の終点●まで指でなぞってみましょう  
じゅひせんい  
これは一回の一筆描きで作られたアットウシ(樹皮纖維製衣服)の背中の文様の例  
です 一筆描きを複数回往復させた文様もあります」

### 【佐々木先生からのひとこと】

「このモデルはアットウシ(樹皮纖維製衣服)の背面の文様です。実物はテー  
プ状に裂いた布を折り曲げて縫いつけ置布とします。そうすると折り曲げた  
部分が少し盛り上がります。一筆描きの部分をよりわかりやすくするために  
置布は切り抜いて平らにしました。目の不自由な方にも触っていただきたい  
と考えてこのようにしました。」 以上、製作された津田命子さんからのメッ  
セージです。



国立民族学博物館  
National Museum of Ethnology

# 文様ツール②

アイヌ文化にあいう



北海道/日本



## 文様ツール②

ひもを使って、アイヌ文様の刺しゅうの進め方を体験できます。

### 【佐々木先生からのひとこと】

解説パネルより

「例を見ながら出発点●からスタートして紐の終り●を出発点にもどします。アイヌ文様の多くは一筆描きの刺しゅうです」



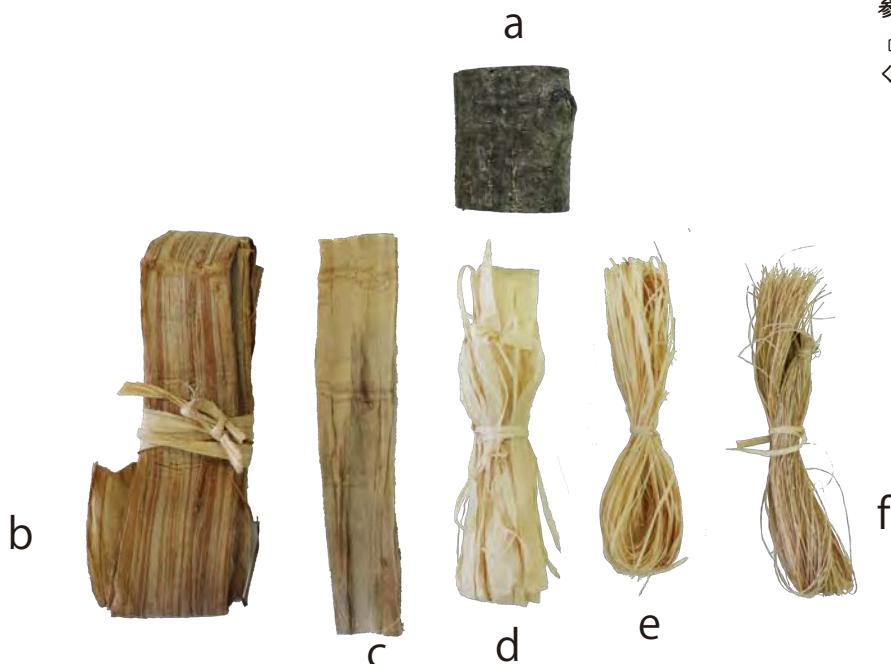
国立民族学博物館  
National Museum of Ethnology

# 樹皮から糸ができるまで

アイヌ文化にあとう



北海道/日本



参照資料 :

『アイヌ もっと知りたい！  
くらしや歴史』P16

## 樹皮から糸ができるまで

じゅひせんい

アットウシ(樹皮纖維製布)は、オヒヨウというニレ科の木の樹皮から作られます。織るのも大変ですが、樹皮から糸を作るまでは、もっと時間と手間がかかります。その工程をわかりやすくセットにしました。

- a.原木
- b.内皮(外側の皮をはいだもの)
- c.内皮をに煮たもの
- d.(c.)を薄くはいだもの
- e.(d.)を細く割いたもの
- f.(e.)に軽く縫りをかけて糸にしたもの

### 【齋藤先生からのひとこと】

みな

皆さんの着ている服は、何の糸でできていますか？その原料はどこで作られたものか考えてみましょう。



国立民族学博物館  
National Museum of Ethnology

# オオウバユリの保存食

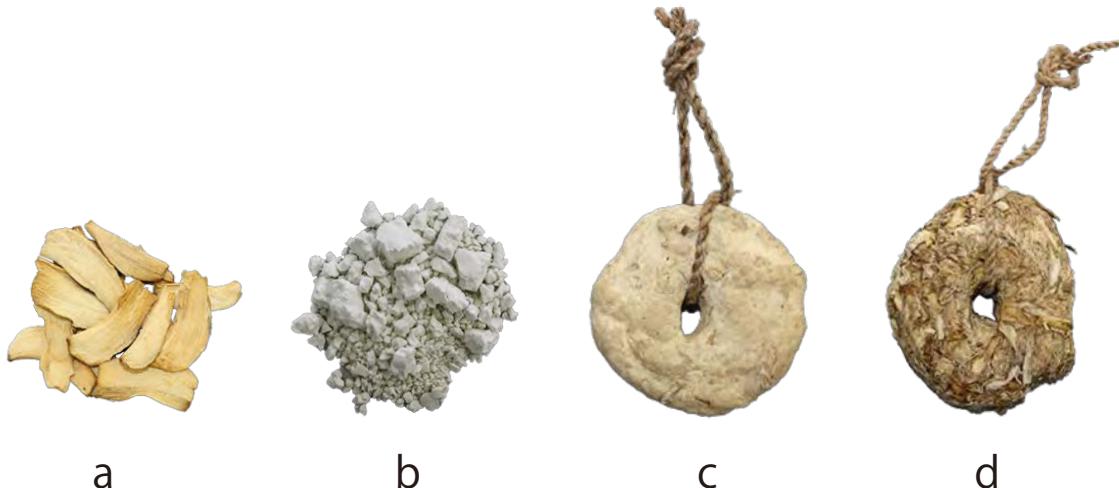
アイヌ文化にあう



北海道/日本

参照資料 :

『アイヌ もっと知りたい！  
くらしや歴史』P22~23  
『アコロコタン』P144



## オオウバユリの保存食

オオウバユリ(アイヌ語でトウレプ)の鱗茎、いわゆるユリ根からは良質な**でんぶん**がとれます。団子やかゆに入れて食べるほか、一番粉(最初にとる**でんぶん**粉)はお腹をこわしたときに薬がわりに飲んだりもしました。**でんぶん**をとった後の絞りかすも、ドーナツ状に丸めて乾燥させて保存しました。

- a.刻んで乾燥させたもの
- b.一番粉
- c.二番粉を丸めて乾燥させたもの
- d.絞りかすを丸めて乾燥させたもの

### 【齋藤先生からのひとこと】

長い冬をこすためには保存食が重要で、トウレプに限らず、さまざまなもの

を乾燥させておきました。かゆや汁物などに入れて、食べました。



国立民族学博物館  
National Museum of Ethnology

# アイヌ語カルタ

アイヌ文化にあう



北海道/日本

参照資料 :

『アイヌ もっと知りたい！  
くらしや歴史』P36～37

a



b

## アイヌ語カルタ

a. 食べ物、薬、ものを作る素材など、よく利用する植物のアイヌ語の名前と説明が付いたカルタです。平取町二風谷の尾崎友香さんが作ったものです。

b. (公財)アイヌ民族文化財団が制作したアイヌ語教材テキスト《入門編》補助教材のカルタです。遊びながらアイヌ語が覚えられます。イラストは小笠原小夜さんが描いたものです。

### 【斎藤先生からのひとこと】

日本語の動物や植物の名前などで、アイヌ語がもとになっているものを探しみましょう。



国立民族学博物館  
National Museum of Ethnology

# 点字カレンダー

アイヌ文化にであう



北海道/日本



## 点字カレンダー

ユニバーサルデザイン絵本センターが発行した2019年のカレンダーです。点字が付いて、触って使えるようになっています。

### 【斎藤先生からのひとこと】

イラストは、(公財)アイヌ民族文化財団のカルタと同じ小笠原小夜さんによるものです。



国立民族学博物館  
National Museum of Ethnology

# アイヌ語すごろく

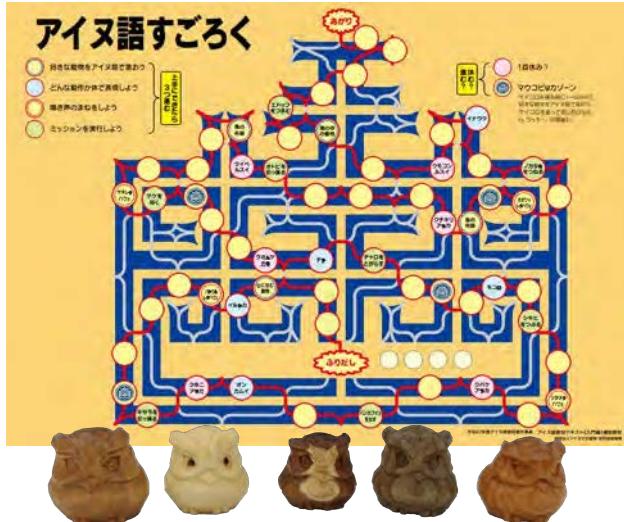
## アイヌ文化にあう

**MINI  
PACK**

北海道/日本

## 參照資料 :

『アイヌ もっと知りたい！  
くらしや歴史』P36～37



## アイヌ語すごろく

(公財)アイヌ民族文化財団が発行したアイヌ語教材の付録です。楽しみながらアイヌ語を学べます。

## 【齋藤先生からのひとこと】

さっぽろ もくちょう  
フクロウの形をしたコマは、札幌市在住の木彫家・荒木繁さんに作っていただきました。木の種類によって色や木目がひとつひとつ違うので、自分のコマを覚えられますね。



# 絵本 (公財)アイヌ民族文化財団 発行

アイヌ文化にであう



北海道/日本

参照資料 :

『アイヌ もっと知りたい！  
くらしや歴史』P40～41



アイヌの伝統などを題材にした幼児むけの絵本です。毎年、原作を募集し、最優秀  
作品を補作して発行しています。みんぱっくに入れたもの以外の作品も同財団の  
ホームページから読むことが出来ます。



国立民族学博物館  
National Museum of Ethnology

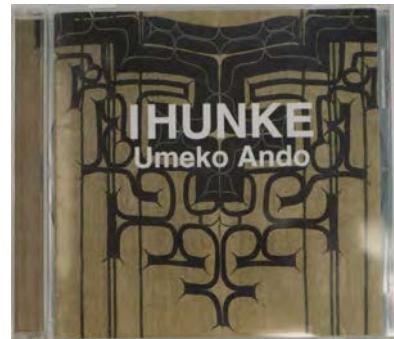
# 音楽CD

アイヌ文化にであう



北海道/日本

a



b

## 音楽CD

えんそう  
ムックリやトンコリの演奏、歌などを収録したCDです。

a.『ムックリの響き:アイヌ民族の口琴と歌』 ④&©2001 日本口琴協会

あかん うらかわ くっしゃろ 屈 とうろ  
北海道の阿寒、浦河、斜路、塘路の伝承者らによるオリジナルのムックリ演奏と、伝統的な歌31曲を収録。

b.『IHUNK』 ④&©2001 Chikar Studio

安東ウメコ(1937-2004) 帯広市フシココタン出身。ウポポ(歌)とムックリの名手で2002年に幕別町の無形文化財指定、2003年北海道文化財保護功労賞受賞。トンコリ奏者OKIがプロデュースし、イフンケ(子守唄)はじめ20曲を収録。



国立民族学博物館  
National Museum of Ethnology

# a. 楽器 トンコリ b. 解説書 『西平ウメとトンコリ』

アイヌ文化にあう



北海道/日本

a



参照資料 :

『アイヌ もっと知りたい！  
くらしや歴史』P35



b

## a. 楽器 トンコリ b. 解説書 『西平ウメとトンコリ』

からふと げんがつき えんそう  
おもに樺太で使われていた弦楽器です。一時は演奏できる人が少なくなりましたが、  
ひ いっぽんでき げん こと  
いまは北海道でも弾く人が増えています。一般的には五弦ですが、弦の数が異なる  
どうたい ものもあります。トンコリの胴体の中には、石などが入れられており、これは楽器の  
しんぞう ひだりかた  
心臓といわれています。楽器は左肩に立てかけて、弦はおさえずに、両手ではじくよ  
うにして弾きます。

a. アイヌ民族博物館 製作

b. 『西平ウメとトンコリ』 ©2005 アイヌ民族博物館

かいさい きかくてん  
(旧)アイヌ民族博物館で開催された同名の企画展の解説書。樺太(サハリン)出身  
の西平ウメさんによるトンコリ演奏を録音したCDおよびトンコリの製作工程や演奏  
しゅうろく 法を収録したDVDが付いています。



国立民族学博物館  
National Museum of Ethnology